〈入学式式辞〉

本日、このよき日に、御来賓の方々、保護者の皆様の御臨席を賜り、第八十一回東大谷高等学校入学式を挙行できますことは、誠に大きな喜びです。ただ今入学を許可された三五六名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。教職員一同、心より歓迎いたします。そして、保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。改めてお祝いを申し上げます。

さて、新入生の皆さんが、将来、自分が高校に入学したこの二〇二六年四月を振り返るとき、それはどのような時期であったと思い出されるのでしょうか。国際的な視点で振り返れば、この二〇二六年四月は、世界各地で大規模な戦争が進行していた時期であったと思い出されるはずです。ウクライナ、イランなどの地域で戦争が進行中ですが、これらの戦争に共通するのは、対立する勢力の一方又は双方が、過去に類のない規模の兵器、情報、資金などを投入していることです。言い換えれば、科学技術、情報技術、経済などの分野において、世界最高峰の知識や知恵が戦争に投入されているのです。私自身、教育に携わる者として、現状には大きな違和感を覚えざるをえません。

この違和感については、第二次世界大戦の戦中・戦後に、ドイツの都市フランクフルトにあった研究機関において盛んに論じられました。第二次世界大戦では、ドイツこそが当時最高峰の知識や知恵を戦争に投入していたからです。その研究機関が指摘したことは、人間の考える力、すなわち理性が本来の目的を実現させてしまったため、目的が見失われてしまっている、ということでした。つまり、人類の歴史において、人間の理性が目的としてきたことは、自然に立ち向かって生活を便利に、豊かにすることです。第二次世界大戦の時点で、この目的は概ね実現されていたため、目的を見失った理性が、戦争の遂行、言い換えれば、効率的に人を傷つけ、殺すことに利用されてしまったのです。現在進行中の二十一世紀の戦争についても、この指摘が完全に当てはまるのではないでしょうか。

この状況下で、皆さんは高校に入学し、高校で学ぶことを選んだのです。心構えはできていますか。よほど明確な目的意識と、その実現に取り組み続ける意志の力がなければ、将来、知らないうちに、皆さん自身が戦争に加担しているかもしれません。では、この便利で豊かな社会において、皆さんの理性は何を目的とするべきなのか。その答えを示してくれるのが、先ほどの研究機関を継承し、この三月に亡くなられたドイツの思想家ハーバーマスです。

ハーバーマスによれば、世界がどれほど便利に、豊かになったとしても、人間は常に困難な課題に直面しています。それは、他者とのコミュニケーションを成り立たせることです。私たちの周りには無数のコミュニケーションがありますが、その参加者は常に変化するし、同じ参加者であっても、考え方や気持ちの変化があるかもしれません。そのような参加者たちから理解と納得を得るには、私たちは理性の力を全開にしてコミュニケーションに臨まなければならない、ということです。つまり、ハーバーマスによれば、他者とのコミュニケーションを成り立たせることこそが、全人類にとって永遠の目的なのです。多くの人がこの目的の実現に努めれば、自ずと戦争のような野蛮なできごとはなくなるはずです。

このハーバーマスの考えを踏まえて、私が皆さんに望むことは、東大谷高校において、コミュニケーションの成立に粘り強く取り組み続けることです。単に周囲と仲よくしようと言っているのではありません。世界中で理不尽な戦争や争いが起こっていることを念頭に、そのような情勢に対抗すべく、日本の、大阪の、堺市にあるこの高校で、全力を尽くして仲間とのコミュニケーションを成り立たせてほしいのです。

親鸞聖人の教えを建学の精神とする本校においては、この講堂や各教室において、生徒や教員が多くの生徒たちの前で話をする － 本校ではこれを感話と呼びます － この感話が日常的に行われています。感話においては、改めて気づいたことについて話されることが多く、話し手と聴き手が相互に視野を広げていきます。感話をとおしてそれぞれに成長があれば、コミュニケーションも変わります。成長した者どうしで、改めて納得や共通理解を確立させることとなるのです。

もちろん、高校生である皆さんの本分は学習であり、皆さん一人一人にとっての最大の課題は進路希望の実現です。この進路希望は、皆さんの学習が深まればさらに発展していきます。したがって、短期的には皆さんの目的は絶えず変化し、時には目的を見失うこともあります。だからこそ、長期的な道標として、世界の一員としての課題であるコミュニケーションの成立にも、全力で取り組んでほしいのです。三年後の卒業式においては、この点において皆さんがどのように成長したのか、そして、世界はどのように変わったのかを共に振り返りましょう。

結びにあたり、保護者の皆さま、御来賓の皆様の本校への御支援に深く感謝申し上げるとともに、今後とも変わらぬ御支援と御協力をいただけますよう、改めてお願い申し上げ、式辞といたします。

令和八年四月六日

東大谷高等学校長　吉永　雅也